

白藍塾オリジナル

2014入試小論文分析&解答のヒント

2014年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志

●慶応・看護医療学部

昨年度は3つの説明問題が出題されていたが、今年度は、説明問題+論述問題の二本立てという、例年通りの形式に戻った。

課題文は、著者の考える「豊かさ」のあり方について述べた、エッセイ風の文章。わかりにくいところはないが、論理的に書かれているわけではないので、いざ論旨をまとめようとすると、意外に難しく感じるかもしれない。

簡単にまとめると、次のようになる。「自然においては、多くの種が、依存し合って生きている。それと同じように、人間も社会の中で、他者と相互に依存し合い、連帯しながら生きている。経済的な価値だけに支配されるのではなく、労働や対人関係や自然との交流によって、全体として生きること、豊かな人生が送れるのである。人間は、感覚や感情や身体という『第一の自然』と、科学技術や生産に関わる『第二の自然』を持っているが、よく生きるためにはその二つの自然が統一されている必要がある。第二の自然に比べて、第一の自然は言語化しにくいために捉えにくい、それがなければ、人間は本当に豊かさを感じることはできない」。

問題1は、著者の考える「豊かさ感」を説明する問題。先にまとめたような内容を、200字という字数に合わせてまとめ直せばそれでよい。基本型Aを使って、最初に「豊かさ感とは、他者と依存し合いながら、全体として生きることによってもたらされる」ということをズバリ示した上で、「第一の自然/第二の自然」とその統一について具体的に説明すれば、うまくまとまるはずだ。

問題2は、その「第一の自然」と「第二の自然」の調和にそぐわないこと具体例を挙げた上で、「調和して生きるとはどのようなことか」を論じる問題。

具体例はいろいろと考えられるが、すぐに思いつくのが、環境問題だろう。環境問題は、科学や生産などの「第二の自然」が行き過ぎて、自然破壊を引き起こし、人間の「第一の自然」を脅かすようになってしまった状況の現れと考えられる。原発などのエネルギー問題を取り上げるのもよいだろう。もっと広く、大量生産・大量消費という「第二の自然」の過剰が、人間の自然な欲求（「第一の自然」）を狂わせている状況、つまり消費社会の問題として考えることもできる。また、看護医療らしく、延命治療などの問題を取り上げて、医療（「第二の自然」）の発達が人間の寿命（「第一の自然」）を不自然に引き延ばし、生命の質を低下させてい

る、という方向で考えるのもよい。ただし、無理に看護医療のテーマと結びつけて書く必要はない。こうした問題では、人間や文明のあり方に対する視野の広さや、現代社会の問題について考えているかどうかを試されているのだから。

書き方としては、最初に「調和して生きるとは、科学や経済ばかりが行き過ぎないように、他者や自然との交流を忘れないで生きることだ」などのように、結論をズバリ示すとよい。その上で、「確かに、科学や経済も重要だ。しかし、それだけでは本当に豊かとは言えない。調和して生きるためには、このようであるべきだ」などのようなことを、具体例に即して説明すればよいだろう。

あまり難しく考える必要はない。課題文の内容、とくに著者の言う「第一の自然」と「第二の自然」の対比をきちんとつかんだ上で、適切な具体例さえ示すことができれば、十分説得力のある答案になるはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>